

日本の大学が行う、海外大学における学びの支援

## 国内大学の留学制度・ 留学支援制度



高校卒業後に海外の大学へ進学する以外にも、海外大学で学ぶ手段はいろいろあります。日本の大学が、グローバル教育を推進するために、海外大学と学生交流に関する協定を結ぶことも増えており、日本の大学に在籍しながら、海外の大学へ留学する選択肢も広がっています。代表的なものは交換留学ですが、多くの学生に海外で学ぶ機会を提供するため、派遣留学や語学留学、期間も数週間のものから1年間の長期に渡るものまで、多くの大学が留学プログラムを充実させています。

それぞれの特徴を、以下に解説していきます。

### 交換留学

日本の大学が、海外の大学と交換留学協定を結び、双方の学生が互いに一定期間留学することができるよう定めた制度のことです。期間は1学期間から1年間まであり、原則、送り出す学生と同数の学生を、無償で受け入れることが定められています。そのため、本人が負担する費用は、日本の在籍大学に納入する授業用の他は渡航や滞在等にかかるものに限られ、最も費用を抑えた留学方法といえます。

大学によって、協定大学の選択肢や選考方法は異なりますが、多いところでは100校以上の大学への交換留学制度がある大学もあります。また、協定には大学として結ばれた「大学間協定」と、一部の学部・学科間で協定を結んだ「部局間協定」の2種類があります。

### 派遣留学

交換留学と同様、留学協定を締結した海外大学に留学する制度のことで、期間は1学期間から1年間まであります。

しかし、交換留学と異なり、一般に受入れ人数や期間に制限が設けられていないため、学内選考の競争率は交換留学に比べて低くなる傾向にあります。一方、留学先での授業料は免除されないため、在籍する大学が全額あるいは一部を補助する場合がありますが、全額本人負担となるケースもあります。

履修科目や単位移行については、入学後に実施される学内説明会などで、早めに確認しておきましょう。

## 交換留学・派遣留学にかかる費用

授業料に関しては、前述のとおり、交換留学では原則本人の負担はありませんが、派遣留学では全額本人負担の場合もあります。また、交換留学の場合でも、授業料以外にかかる費用は、原則本人が負担することになります。以下に挙げるような費用が必要となりますので、費用計画もしっかりと立てておきましょう。

- ・航空券
- ・留学生用の保険
- ・滞在費（寮やアパートなどの費用）
- ・食費
- ・現地での交通費

なお、大学によっては、留学にも利用可能な奨学金や、留学に特化した支援金制度を設けているところもあります。奨学金の制度や支援の対象になる費用については、各大学で確認しましょう。また日本学生支援機構（JASSO）の奨学金などもありますので、留学の制度に加えて、経済的な支援制度についても情報収集をしていきましょう。

## 履修科目・単位認定・卒業について

### ●履修できる科目

交換留学の場合、専攻分野に関連した授業を履修するなど、学部や履修科目の範囲がある程度決められている場合がほとんどです。派遣留学の場合は、大学ごとにその定義が異なるので、規定をよく理解しておくことが大切です。

### ●単位・卒業

留学先での履修科目や取得単位が卒業単位として認定されるかどうか、事前に指導教員や事務局に確認した上で、履修計画を立てることが大切です。

また、派遣留学の場合、日本の大学での籍の扱いによって、仮に留学で履修した単位が全て認定された場合でも、4年間で卒業とならないこともあります。大学への事前確認は忘れずに行いましょう。

## 交換留学・派遣留学のための条件・方法

交換留学・派遣留学では、まず、学内での選考を通過することが必要となります。選考は、一般的に以下の3つの条件に基づいて行われます。

①語学力…TOEFL、IELTSなどのスコア、またはそれに相当する各国の語学力試験の結果。

協定先の大学や応募するプログラムにより異なりますが、授業を理解するのに必要な

語学力のレベルを各大学が設定しています。個人手配で留学する場合よりも早めに、スコアの提出が必要となります。

- ②在籍する大学での成績
- ③留学にかかる諸費用の支払能力

同条件の希望者が多い場合、②の成績がより重視されることもあります。英語だけでなく、他の授業でも良い成績を修めておくことが大切です。

### 参考例 1：東京都立大学

募集：春出発・秋出発の年 2 回

条件（2022 年春）：

- 交換留学（募集時）
  - ・ GPA：2.0 以上
  - ・ 語学力：IELTS 5.0 以上（各セクション 4.5 以上）又は TOEFL iBT 60 以上（各セクション 14 以上） ※英語以外の言語で留学する場合は学内語学能力試験及び小論文により選考実施される
  - ・ 留学先の授業料負担：なし
  - ・ 協定校：10 校（秋は 50 校以上を予定）
  
- 派遣留学
  - ・ GPA：2.0 以上
  - ・ 語学力：各協定校の規定による
  - ・ 留学先の授業料負担：あり
  - ・ 協定校：3 校

### 参考例 2：明治大学

募集：春出発・秋出発の年 2 回

条件（2022 年秋）：

- 交換留学（募集時）
  - ・ GPA：協定校の規定による（規定がない場合、2.0 以上）
  - ・ 語学力：
    - 英語：協定校の規定による（規定がない場合、TOEFL iBT 61/IELTS 5.5 以上）
    - 英語以外の言語：協定校の規定による（規定がない場合、CEFR B1 レベル）
  - ・ 留学先の授業料負担：なし

- ・ 協定校：108 校

● 派遣留学（大学間協定留学授業料負担型）

- ・ GPA：協定校の規定による（規定がない場合、2.0 以上）
- ・ 語学力：
  - 英語：協定校の規定による（規定がない場合、TOEFL iBT 61/IELTS 5.5 以上）
  - 英語以外の言語：協定校の規定による（規定がない場合、CEFR B1 レベル）
- ・ 留学先の授業料負担：あり
- ・ 協定校：20 校

その他の留学制度

交換留学、派遣留学以外にも、国内の大学には短期・長期の語学留学や海外フィールドワークなどの海外研修など、様々な留学制度があります。こうした機会は、留学費用は基本的に本人負担となりますが、奨学金や補助金の制度も拡充されています。海外の大学へ進学する準備をしておけば、日本の大学へ進学した場合でも、こうした制度を利用して海外で学ぶことができるチャンスが広がります。